

企業名：滋賀銀行

レポート名： SHIGA BANK REPORT 2022

## 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

レポートには、2030年までに達成すべき目標として、「地域経済の創造（Sustainable development への推進・新規投融資額一兆円）」「地球環境の持続性（2013年度比で温室効果ガス排出量75%以上削減）」「多様な人材の育成」の三本柱が掲げられている。

同銀行は、「自分に厳しく 人には親切 社会につくす」という1966年に制定された行是のを発展させ、2007年には「地域社会」「役職員」「地球環境」の3つとの共生を目指す経営理念を発表している。役職員も参加しての琵琶湖の環境保全や、本支店の省エネ活動などの活動以外にも、本社で使用する電力を再生可能エネルギー由来の実質 CO2 フリー電気を導入するという大規模な試みをおこなっている。

多種多様な「人財」を確保するため、「ダイバーシティ推進会」を設置し、管理職に就く女性の割合の増加や、男性職員の配偶者出産特別休暇取得率の上昇を図っており、自社の従業員が働きやすい環境づくりにも着手している。

また、「ポジティブ・インパクト・ファイナンス」といったサステナブル・ファイナンス関連商品への投融資は累計 5,028 億円となっており、目標額を折り返している。

環境および多様性に関する問題が世界的に提起されたのち、現実的な計画もなしに流行に乗っかるような形ではなく、早くから諸問題の重大さを意識し実績も上げていることから、将来の会社の姿がはっきりとわかり、かつそこに至るまでの計画も信頼できる。

## 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

同銀行は、

- ・デジタルの活用でお客さまの利便性向上や満足度向上に貢献していくこと
- ・業務の生産性を向上させること
- ・安心・安全なデジタルサービスの提供に取り組むこと

の3つから成るデジタル戦略を経営戦略の中核としている。2021年10月には滋賀県町村会との間で「6町DX戦略会議アドバイザー協定書」を締結したが、DX（デジタルトランスフォーメーション）の導入により取引先の業務・製造プロセスをデジタル化し、データ集積による組織横断的な分析を可能にするという。高い技術力をもってして地域社会と密接にかかわっている銀行だからこそ、取引先から信頼を寄せられているといえよう。チャンネル戦略

さらに、環境対応型の金融商品やサービスを顧客に提供し、相手の企業価値向上と環境保全を両立させる「環境金融」も、自然に考慮しつつ優良な金融商品・サービスを得たい企業をひきつけるという点で優位性の1つだといえる。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

デジタル化の動きは他の銀行でも進められているが、取引先の一社一社の現状と向き合い、課題解決のためのアイデアを提示するというサービスは、地域密着型の銀行だからこそなせることである。直接的に築かれた関係性は容易く崩れることはなく、地域企業も信頼を寄せているであろうことから、持続性は認められる。

環境金融についても、環境問題を解決する必要性が世界的に低下するとは考えられず、むしろ従来の商品やサービスから切り替えて、新たに自然に配慮したものを受容し始める企業が増加すると予測されるため、持続性は十分にあるだろう。

### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

同銀行は従業員が個々を發揮し組織に貢献できるようにと、ダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを進めている。研修においてもただ一方的に業務を教授するのではなく、グループワークやディスカッションを行い、考えを編み出し発案する力や、物事の本質を理解する力を身に着けることを目指している。

業務以外では、自主参加のセミナーや地域活動を開催しており、あらたなる知見や知識の習得が期待できるため、全体として人的資本の価値向上は達成できると思われる。

### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

インタビュー、対話型で事業内容な今後の展望を説明するページがいくつかあったが、文章量が多かったため、話題ごとにタイトルや表、グラフなどを添付したり、重要な内容をわかりやすく表示したりすればより伝わりやすくなると感じた。

また、些細なことではあるが、使用されている画像が粗く、やや見にくいのが気になった。